

「流域治水シンポジウムひろしま 2025」の開催結果について

1 要旨・目的

流域治水の意識醸成を図るため、住民・企業の方々が「流域治水」に関わる身近な取組を知り、自分事として考えていただくことを目的に「流域治水シンポジウムひろしま 2025」を開催したので、結果について報告する。

2 現状・背景

気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対応するため、流域全体で実施すべき対策の全体像である「流域治水プロジェクト」に基づき対策を進めるとともに、雨水浸透阻害行為の許可等法的枠組みの活用に向けた特定都市河川流域の指定を進めるなど「流域治水」を強力に推進している。

また、「流域治水」を加速・深化するためには、住民・企業の皆様などの意識醸成が進むことが重要であることから、令和5年度より流域治水シンポジウムを開催しており、「流域治水」を一層進めていくため、引き続きシンポジウム等を通じ、様々な取組について知っていただくことにより、住民・企業の皆様の中から取り組む主体を増やしていく必要がある。

3 概要

(1) 実施日時

令和7年12月2日（火） 14時10分～17時

(2) 場所

広島 YMCA 国際文化ホール（広島県広島市中区八丁堀7-11）

(3) 実施内容

①基調講演

ア 関口 奈美氏「激甚化する気象災害～正しく備える意識と知識～」

イ 瀧 健太郎氏「できることからはじめよう 小さな流域治水・小さな自然再生」

②パネルディスカッション

テーマ「身近な流域治水と防災」

(4) 開催結果

開催概要	<ul style="list-style-type: none"> 流域治水に関する様々な取組について知っていただき、住民・企業の皆様の中から取り組む主体を増やしていくため、流域治水シンポジウムを開催した。 シンポジウムには、流域治水関係者や防災士をはじめ、約120名が参加し、基調講演やパネルディスカッションを聴講した。
登壇メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇により、毎年異常気象が起きており、流域治水の必要性が増している。 雨庭や浸透性の駐車場などの小さな工夫で街を守ることができる。 河川から得られる恵みをなくさないように、災いから地域を守ることが大事。

4 今後の取組

今後は、題目毎の動画に加え、ダイジェスト動画（5分程度）も配信し、大学や防災士、教育委員会などへの周知を実施し、アンケート結果を踏まえて引き続き流域治水の認知度向上に向けた効果的な広報に努める。（1月19日公開済）

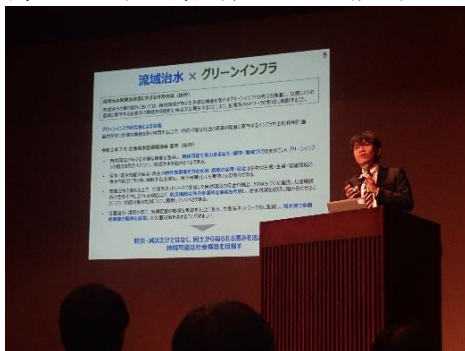
開催状況写真



藤田 土木建築局長による概要説明



関口 気象予報士による基調講演



瀧 教授による基調講演



パネルディスカッション

アンケート結果 アンケート回答者数：67 名（来場者 116 名）

<p>Q. シンポジウム参加前、流域治水についてどの程度知っていましたか？</p> <p>・参加した約7割がよく知らない状況</p>	<p>Q. 流域治水について、どの程度理解が深まりましたか？</p> <p>・河川改修などに限らない様々な取組が流域治水に寄与することが分かった</p>
<p>Q. 流域治水や防災について、どのような取組ができると感じましたか？</p> <p>・マイタイムラインの作成などの洪水時に逃げるための準備や、河川の外で身近に取り組める水路清掃などの対策ができると回答があった</p>	<p>Q. どのようなイベントであれば参加・関心を持ちやすいですか？</p> <p>・説明会や地域でのイベントなどの要望やSNSなどを活用した情報発信についても要望があった</p>